

実践名（時間） 校内支援体制コンサルテーション

実施者（所属） 丹波篠山市立 岡野小学校 森田美紀

| | |
|-------|--|
| 1 子ども | 外国人児童7名 |
| 2 目標 | 外国人児童の学校生活を支える |
| 3 活動 | 外国人児童は多国籍、多学年に渡るため、支援方法のコンサルテーションを図り、校内の連携をはかる「多文化共生委員会」を設置し、管理職をはじめ、日本語指導担当、学級担任、養護教諭、学校事務職員等で共通理解をはかり、学習や学校生活における情報交換や個別の時間割調整、市の教育委員会との連携等をそれぞれの役割に応じて支援内容を思考し実施した。 |
| 4 工夫 | 多文化共生委員会では、赴任された先生方対象に外国人児童の内情がわかるように説明し、彼らの必要な支援を確認し作成した「特別の教育課程」をもとに、本年度の日本語支援指導の個別の教育計画を伝達した。夏休みには、篠山国際理解センターの支援員の方と一学期の成果と課題を確認したり、日本語指導者養成研修会で学んだことを夏休みの職員研修の一環として伝えたりしている。 |

資料（種類：スライドより抜粋）

日本語指導担当

「特別の教育課程」「個別の指導計画」の作成や学習の実態把握、外国人児童の「居場所」づくり等、日本語指導を受けるための教育環境を整える。（支援ツール作成、学校配付文書、通信、成績表などの翻訳）

学級担任との連携や他教員との児童の共通理解と学校生活に関する情報交換を定期的におこなう。

取り出しによる日本語指導（週2～3回程度）

多文化共生、日本語指導に関わる研修の受講やその報告伝達。

教育委員会の担当者、外部機関（NPO法人篠山国際理解センター）の日本語指導員の先生方との連携、情報交換。
保護者への連絡・懇談調整。

管理職

校務分掌内に「日本語担当者」を位置づける。

日本語担当者が他教員と連携をはかれるよう、「多文化共生委員会」を設置し、定期的に委員会の開催を実施する。県の教育委員会や市の教育委員会と連携し、子ども多文化サポーターや日本語指導教育に特化したNPO法人篠山国際理解センターの指導者の派遣を依頼する。

地域の母語支援者へ翻訳と通訳の依頼等。

外国人児童の保護者への連絡体制を整える。
（緊急時の連絡ツールや欠席等確認）

日本人保護者との関係づくり

【PTO（岡野小学校における保護者と教職員の社会教育関係団体）、登下校の地区連携】。

学級担任

外国人児童のプロフィールや家庭環境等を記載した個票作成。

外国人児童を受け入れる居場所づくりやクラスでの共通理解をする。

家庭への連絡や情報の発信方法として、最低限必要な情報を保護者に伝えるために、配付プリント等に下線を引き、日本語指導担当へ渡す。

養護教諭

学校医との連携。医療行為に際して必要な宗教的事項

（主にイスラム教、ヒンドゥー教）の確認。

医療に関する母語翻訳の依頼。

市内近隣の病院等の場所と地図の提供。
食物アレルギーに関する事項の確認等。

学校事務教諭

就学（入学・編入出・転入出）の務手続き。
（ビザ、住所の確認含む）

就学援助認定・就学奨励認定の説明通訳依頼や翻訳文書の依頼。

保護者名義の金融機関の確認と金融口座開設の有無確認。
市の教育委員会との学校事務や就学にあたっての確認連携。

【多文化時間割】

毎週、NPO法人篠山国際理解センターの事務局に送付し、各担当の先生方に知らせていただく。校内では、管理職や教科担当者が確認できるように1部掲示する。

担任がどの授業にどの先生が入り込まれるのか、どの授業を取り出し学習するのか把握するため、毎週水曜日に次週の時間割を確認し、日本語指導担当者が多文化共生時間割を作成し、各外国人児童のいる学年の担任へ配付する。